

自然観察NOW

野幌森林公園自然情報

2011・3・20 No 10

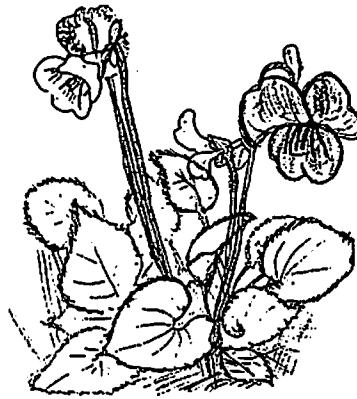
北海道ボランティア・レンジャー協議会

二種類ある木部

春の陽射しが強くなってきて野幌森林公園内の植物たち、樹木は芽を出し始め、雪が溶けたところでは草本も緑色を増して元気を出てきました。春の使者といわれるスミレの季節には少し早いのですが、春への憧れの気持ちをこめたスミレの詩や歌にふれてみます。

18世紀の「スミレ」(das Veilchen ダス、ファイルヒエン)はドイツの詩人ゲーテの深い愛慕の情を詠った詩でモーツアルトが曲をつけたものです。独り咲きの小さなスミレが、羊飼いの少女に近づきたいと願うのですが、気付いてもらえず踏み潰されてしまうのですが、それでもスミレは、彼女に踏まれて死ねたと喜びます。

モーツアルトは最後に、スミレに対する同情を二行一かわいそうなスミレ、ほんとうにかわいそうなスミレー書き加えました。彼の歌曲のなかで一番美しい曲だとされています。



今回はスミレのような草本植物とは違って形成層の活動によって年々大きくなる木本植物について記してみます。

で木部、多数の観察会の中で、芽、花、葉と説明されますが、木部についてはほとんど説明されません。建築材、家具材としての説明位です (材 Wood)。これは不公平です。もう少し木部について考えたいと思います。

学術用語的な事は別に、ここでは木部には二種類ある事を申し述べます。木部には一次木部と、二次木部に分けられる中で、一次木部には原生木部と後生木部とがあります。発生的な面でみると、シート頂(枝先)にある前形成層で作られるのが「一次木部」(徒長枝)、茎(幹)の形成層で作られるのが「二次木部」(通常の木部)で一次木部は時間経過によって二次木部になって行きます。

《前形成層》

前形成層は、頂端分裂組織(シート頂)や、根端に生じ、縦方向(体軸方向)に成長する役割をもつ維管束をつくる分裂組織で、道管、仮道管組織、柔組織、繊維組織など維管束に含まれる様々な組織を分化します。

《形成層》

二次肥大成長を行う植物体は、維管束内及び維管束管に生じる形成層によって、茎（幹）の外側には、二次師部、内側には二次木部が作られます。これは横方向成長（肥大）です。この過程でそれぞれ韌皮（じんぴ）と材に発達します。韌皮は布を作るのに利用されてきました

木部に二種類あるのが理解されたでしょうか。形成層も二種類ある事も同じく理解できると思います。

簡単に木部は死んだ細胞の一言の説明で片付けられるとは、木部は淋しいと思ってはいないうえでどうか。同情したくなります。



左の写真は「ポプラの形成層帯の横断面」

*『森林の100不思議』（日本林業技術協会編）
東京書籍。から引用させてもらいました。

*ここで簡単な<コメント>

皆さんもよく知っていることですが、ここで一休みして簡単な解説。
師部（師管）は葉で作られた養分を運ぶ通路。
道管は木部の一部で、水の通路。細胞間のしきりがなく、水が通りやすくなっています。

*これから観察会の予定

- ・4月21日（木） 「春の花を見つけよう」 自然ふれあい交流館 集合
- ・5月8日（日） 「春のありがとう観察会」 同上

* 詳しくは「自然ふれあい交流館」の情報などで確かめてください。